

教育目標(めざす児童生徒像)

自ら学ぶ、心豊かな新野の子を育成する。

に にここ 自分や人を大切にする子  
 い いきいき めあてをもって学ぶ子 すすんで働く子  
 のっ のびのび 元気に運動する子  
 こ こつこつ ねばり強い子

今年度の指導の重点

- 1 互いに認め合えるなかまづくりを進めていく。
- 2 めあてをもち 進んで学習する子を育てる。
- 3 「聞く」「書く」「話す」の学習スキルを定着させ、表現する力を育てる。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国(小学校)  
 国語Bの学習指導要領の領域等の書くことについては、県平均とくらべると正答率が高い。  
 国語Bの 評価の観点 国語への関心・意欲・態度と書く能力については、県平均と比べると正答率が高い。  
 国語Bの問題形式 記述式は、県平均と比べるとかなり高い。  
 ことわざの意味を理解している子が9割程度できているが、漢字の読み書きの力が十分ではない。  
 算数Aの数量や図形についての技能は、県平均と比べると正答率が高い。木の周りの長さを測定する器具は全員正答している。繰り下がりのある減法と乗数が整数である場合の分数の乗法の計算は、9割程度理解できている。  
 算数Aの図形については、県平均に比べると下回った。  
 算数Bの特に数学的な考え方 割合が同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、その判断の理由を記述する問題については、県平均に比べると下回った。

県(中学校)  
 国語の漢字読み「将来」については、全員が正答している。漢字読み書きについては、県平均を上回る問題もあった。国語・算数・理科・社会の全体の正答率は、県平均を下回った。  
 社会の地図記号の問題は、県平均と比べると高い。福祉と関係の深い仕事については、8割以上理解している。無回答の割合が県平均に比べると高い。

【学習状況調査の結果】

テレビ等の視聴時間(3時間以上)は、県平均に比べると高い。  
 家庭学習の時間(1時間より少ない)は、県平均に比べると高い。  
 学校の宿題をしている割合が県平均に比べると低い。  
 家庭学習の内容や方法について教えてもらっている割合は、県平均よりかなり高い。  
 「近所の人に会ったときは、あいさつをしている。」と答えた児童生徒の割合が県平均より高い。  
 「自分にはよいところがある。」と思っている児童生徒の割合が県平均に比べると低い。  
 「本を読んだり、借りたりするために、学校の図書室や地域の図書館の利用」については、県平均に比べるとかなり高い。  
 「テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している」という生徒の割合が県平均より高い。  
 「学習の終わりに、学習のまとめや振り返りをしていた」と答えた生徒の割合が県平均より高い。  
 「総合的な学習の時間」「国語」の学習が好きだと答えた生徒の割合が県平均よりかなり高く、昨年度より数値が上がっている。  
 「苦手な教科の勉強をしている子」の割合は県平均に比べると低い。  
 「調査問題の解答時間は十分でしたか」の質問に対して、どの教科も時間が足りなかったと答えている。

成果と課題

全国学力・学習調査で書くことや国語への関心・意欲・態度の問題では、正答率が県平均より高い。  
 全国学力・学習調査で「ことわざの意味を理解する。」は、9割程度の正答率だった。  
 全国学力・学習調査で木の周りの長さを測定する器具を全員正答だった。  
 全国学力・学習調査で繰り下がりのある減法と乗数が整数である場合の分数の乗法の計算は、9割程度の正答率だった。  
 全国学力・学習調査で「漢字の読みや書き」は、正答率が低かった。  
 全国学力・学習調査で図形や数学的な考えについての問題の正答率が低かった。  
 県の学力・学習状況調査については、どの教科も県平均より低かった。  
 昨年度の学力向上担当者の話し合いをうけ、「テストで間違えた問題について、後で勉強している。」と答えた生徒がふえている。  
 昨年度の津山市の3つ6つの取り組みをうけ、「学習の終わりに、学習のまとめや振り返りをしていた」と答えた生徒がふえている。

課題に対応した改善方法

中学校ブロックの小中連携学力向上担当者で話し合ったこと 次の3つについての学習習慣を身につけるようにする。  
**チャイムの合図を守る。私語をしない。聞く力をつけていく。**  
 また、**基礎基本「読み 書き 計算」の力**を繰り返し 徹底させて 身につけさせるようにする。  
 落ち着いた学習環境作りのためのルールやきまりの徹底につとめる。  
 学習の流れ・めあて・ポイント・まとめカード、理科の学習の予想・結果・考察カードを活用してわかりやすい授業作りにつとめる。  
 「わかる授業 楽しい授業づくり」をめざして、授業改善につとめる。  
 授業の導入で声に出して読むことやフラッシュカードなどで復習をしたり、小テストをしたりする。  
 授業の中で、書く活動を取り入れ、書くことをきたえる。  
 到達度確認テストを行い、定着が不十分な問題については再度復習する。  
 放課後の補充学習(少人数で)を2年は週3回、3年は週1回、5年は週1回行い、基礎学力の定着を図る。

取組の検証方法及び検証時期

学力テストの実施(5月)  
 児童へのアンケートの実施(学期ごと)  
 授業参観カードの活用 授業気づきカードの活用  
 上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。

達成目標(数値目標)

家庭学習が10分×学年の時間できている児童の割合を上げる。  
 「各教科がすき」と回答する児童の割合を上げる。  
 「自分にはよいところがある」と回答する子の割合を70%以上に上げる。